

案 件：第3回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

1 主な意見

日 時	平成30年2月23日（金）午後1時30分～午後3時45分
場 所	豊橋市役所 東館12階 東121会議室
報 告 者	生きがい支援G 三浦
参 加 者	委員 14名 発表者 2名（八町リビングほっこり） 傍聴者 2名 事務局 長寿介護課

（1）お互いさまのまちづくりネットワークについて
事務局より報告。

- ・藤田委員：ネットワークの登録の項目について、活動内容や活動頻度、活動拠点、活動エリアを公表してもよいのではないかと。
- ・事務局：団体の許可の出る範囲で載せていけたら。
- ・村川委員：登録のインセンティブについて、保険はスタッフ名簿を提出した団体に限るとあるが、名簿に載っている人だけが対象になるのか。参加者は。
- ・事務局：ケースによるのではっきりとは言えないが、基本的には運営スタッフ。
- ・大野委員：自治会の保険の場合は、名簿はいらぬはずだが。
- ・事務局：自治会活動の一環とすればそのようだが、お互いさまのまちづくりネットワークの登録とは別である。
- ・野中委員：参加者の場合は、保証はないということでよい。
- ・事務局：その認識で間違っていない。

（2）平成29年度の実施結果及び今後の方向性について
事務局より現段階の年次報告の報告。

自由意見

- ・野中委員：地域包括支援センターの立ち上げ支援プランの部分だが、それで全てではなく、東部と南部の部分のみ。
- ・神谷委員：手間でも、すべてを挙げたほうがよい。頂いた情報を的確に上げていったほうがよい。もう1点、社会福祉協議会は、認知度向上プランとして何もやっていないということはないと思うが、なぜ載っていないのか。
- ・松井委員：はじめの1歩講座等の中に居場所づくりを入れていたり、包括と協働してやっていることもあるので、社会福祉協議会としてあげていないものもある。
- ・神谷委員：全てとは言わないが、載せたほうが良いと思う。
- ・岩崎委員：公表は考えていないのか。
- ・事務局：基本的には内部資料だが、公表しない理由はない。
- ・神谷委員：隠すことは何もないので、公表したほうが良いと思う。
- ・横田委員：ガイドツアーの受け入れを行ったが、その参加者について先日話をしたが、居場所をつくらうとしたら自治会の反対にあったという。せっかく立ち上げようとする人がいるのにつぶされてしまうのはもったいない。どうしてなのか。

- ・岩崎委員：そのあたりは、次年度の課題になっていくのかなと思う。
- ・小林委員：地域の独自性もある。校区においても、その都度、会合のたびに話をしているが立ち上がる場所は少ない。自治会の締め付けはないように思う。
- ・事務局：把握分なので、みなさんが知っているところがあれば、その都度教えていただければと思う。
- ・大野委員：2月25日（日）に、自治会に向けて話す機会がある。まちづくり講習会という市民協働推進課主催の会であるが、先程の横田さんの話を少ししたいと思う。良い活動をとめてはいけない。また、11校区が30%以上越えているのにもかかわらず、活動があまりなされていない校区もある。公の場で話をしていきたいと思う。

総括

- ・岩崎委員：総括について。直したほうが良いところなどご意見あれば。
- ・事務局：今までの話を聞くと、団体によっては温度差があるというのもわかった。
- ・稲垣委員：老人クラブの場合を例に出すが、トップ（理事）では話があるかもしれないが、会員レベルになると話を聞いたことがない。トップだけの認知度はあがったのかもしれないが。
- ・岡本委員：私もそういう話がある。立ち上げようとしていた人いて、つぶされてしまった人もいる。なので、まだまだ認知度は低いように思う。
- ・岩崎委員：自治会の子供会などのように、活動の1つとしてお互いさまのまちづくりがあるべき。
- ・大野委員：トップダウンでは話が来ないというのが現実。なので、自分たちで作り上げていかないと、変わらない。これは課題だと思う。男の人の参加が少ないという課題もある。自治会やっているのが男性中心ということも関係しているだろう。
- ・小林委員：こういう話が出ているが、自治連合会の三役をお互いさままちづくり協議会への参加を投げかけたらどうか。現場を見てもらうことが必要だと思う。
- ・事務局：もちろん良いと思う。小林さんが代表で出ているので、そういった中で事務局が動いていいのかなのか…
- ・小林委員：では私のほうから声がけする。こういったことがあると知れば、会話の中にも出てくるようになるかもしれない。締め付けがあるのであればそういう話をした方がいい。
- ・岡本委員：締め付けではなく無関心。
- ・大野委員：連合会の会議の中で話をしても、意味がない。無関心の人は聞いていない。何をしても無理。そういう人には直接話して、動いていくしかない。自分たちが動くしかないと思う。
- ・横田委員：校区の自治会と理解し合いながら進めていくことが大事。自治会長、校区の役員と話をして行かないといけない。お互いに助け合ってやっていくことをみんなで理解して進めていかないといいない。
- ・岩崎委員：いろいろな意見が出たが「自治会との連携」をしっかりと行っていくことは明記する必要がある。うまくまとめていただければ。
- ・藤田委員：支え合い活動というと、すごいことをやらなくてはいけないと思ってしまいが、実は日頃やっていることも助け合い活動なんだと気づかせることは大事だと思う。地域にはいろんな宝がある。気づかせてあげることが重要である。そういう意識のほうが心が楽になる。
- ・岩崎委員：すでにあるものを気づくことが大切である。
- ・稲垣委員：コーディネーターとして、今年立ち上がった20の活動となかなか連携がうまくとれていなかったのもので、今後の展開で考えていく必要がある。

今後の展開

- ・藤田委員：生活支援サポーター等いろいろと取り組んでいる方は多いが、そういう人々を活かす方法を考えていきたい。
- ・岩崎委員：担い手創出プランに入る。そういう人々を発掘していく必要がある。
- ・村川委員：そういう人々たちは公表できないのか
- ・松井委員：そういったことに興味のある方は、すでにいろいろと取り組んでおり、活動が手一杯の方も多い。52校区ある中であいとぴあだけでやるので、地域で活動して下さいというのは難しいのが現状。図書館でやっているような読み聞かせはあまり地域ではやらない。なので、コントロールするのは難しいかなと思う。だが、ボランティアセンターに確認して下さいというのはよく言っている。そこはコーディネート機能でやっているのだから、言われていることは分かるが、マッチングできるかどうかというのは、難しいと思う。
- ・藤田委員：そういう方々の中には、何かに属してしまうと縛られる感じがして嫌だという意見もある。
- ・松井委員：ボランティア活動定着支援のような形がないと厳しい。
- ・神谷委員：私は民生委員13年、NPOもやっていて、会社もやっているのだから、民生委員活動がおろそかになってしまっている。そこで何をやったかというところ、福祉委員を募ってもらって、その人達が守秘義務以外の支え合いをやっている。会は嫌だと言われているのだからそうはしないが、「支え合い勝手隊」のようなものができている。豊川市では、福祉委員を募ろうという話になっている。社協ではなく、地域で募集をしている。今回、この協議会に出るにあたって、ひとつづくりに注力していく、ことが大事かなと。それと、庁舎内の連携は必至。今回も市民協働がここにいないことがおかしい。来年度の話は、庁舎内の連携を強化すること。今後の展開としては必ず必要。自治会を束ねているのは市民協働なので、連携しなくてはならない。
- ・岩崎委員：今後の展開としては、3つ出た。自治会、ひとつづくり、庁内連携。
- ・稲垣委員：研修にいろいろと出ているが、多くの市町村が包括や社協にコーディネーターをつけてやっている。地域の範囲も制限してやっている。コーディネーターの動きは決まったが、どう動いたらいいかわからないという人が研修に出ている。そのあたりも次年度、やっていく必要がある。

2 連絡・報告事項

①八丁校区支え合い活動の事例紹介

八丁リビングほっこの佐々木氏、鳥居氏による活動報告。

- ・大野委員：どの居場所にも男性の参加者が少ないのは研究をしないといけないなと課題として感じた。
岡山県の奈義町では「ちょいワルじいさん」という取り組みをしている。男性が中心となって引きこもりの問題などに取り組んでいる。平田オリザという方が演劇をやったりしているという。
こういったところに参加してもらえれば仕組みを考えたい。
- ・横田委員：八丁校区は自治会と連携をとっているからうまくやれている。応援してあげようというふうになる。素晴らしい自治会。
- ・佐々木氏：地域の委員などをいろいろとやっていたので、横のつながりができていたところで話を持っていたのでうまくいったと思う。
- ・鳥居氏：自治会へのお願いのとき、地域包括のふくろうの方も一緒に行ってくださいったんですが、地域で見守りをしていかななくてはならない、ということ

熱心に伝えてくれた。

- ・稲垣委員：2人以外に、スタッフはどれほどいるのか。
- ・ほっこり：7人。あとは、民生委員さんが配布物を配るときにほっこのチラシを配っていただいている。知っている人がいるから行くという流れ。
- ・鳥居氏：本当に人に恵まれている。
- ・佐々木氏：徐々に参加者の人もお手伝いしてくださる。本当に助かっている。
- ・神野委員：この地域は、鬼まつりなどがあり、地域につながりがある。何かやることを与えればいいのかと。人材は隠れているのだろう。
- ・鳥居氏：将棋や囲碁は準備しているが、なかなか難しい。
- ・佐々木氏：参加してくださっている男性の方は、我々と一緒のことをやってくださっている。男性の方が若いので、手芸にしてもすぐ覚えてしまう。大体、平均だと80-90歳くらいの方が来ている。ほっこりに来て下さる方よりも若い方々、若年寄、と呼んでいます。そういう方は老人クラブで楽しんでもらって、もう少し歳を行った方はほっこりに来ていただければ。認知症がある人もいますので、つきっきりです。
- ・神谷委員：男性の人は最初の一步が踏み出せない。我々は情報ライブラリで無料で動画を借りてきて、それを上映してみた。そうしたら、半分くらいは男性になった。きっかけはそういうことかなと。

②プロモーショングッズ等について

③お互いさまのまちづくりフェアについて

④支え合い活動者交流会について

3 その他

- ・平成30年度 第1回協議会

5月21日（月）13：30～ 豊橋市役所8階 東85会議室